

令和7年度 引佐北部小中学校 学校評価

【学校の理念】 みんなでつくる「みさと」の学校
 【学校教育目標】 心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成

1. 令和7年度の取り組み

心豊かに生きる児童・生徒	たくましく生きる児童・生徒
○自分を大切にできる ○他者を認め、協働できる	○主体的に取り組む ○自己調整しながら、挑戦し続ける
【学校運営の重点】	
① 児童・生徒の主体性の育成（各教科授業・特別活動・部活動等すべての教育活動を通して主体性を育む工夫、「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識の向上）	
② 「引北らしさ」を生かした教育活動の充実（探究的な学習の推進、生徒主体による「模擬会社きりやま」の運営、異年齢集団との意味のある交流、日常の授業におけるコミュニケーション活動の充実）	
③ 授業における個別最適な学び、協働的な学びの推進（主体的な学習・継続的な探究学習・コミュニケーションを大切に共同学習の推進、学習計画を生かし自己調整しながら進める自主学習、効果的なICT活用・タブレット端末の活用率向上と協働学習の推進、複式学級における運営と指導向上のための研修推進）	
④ 安心できる居場所づくり（児童生徒支援における共通理解・個に応じた支援の充実、就学支援委員会・発達支援教室の充実、人間関係プログラムの実施、振り返りアンケート・いじめアンケートの実施と丁寧な確認と対応、積極的ないじめ認知・組織的かつ早期の対応（いじめ対策委員会））	
⑤ 地域に開かれた教育課程の推進（学校運営協議会や保護者との信頼、協働・地域での学び、地域の方による学習支援の充実）	

2. 自己評価

○ 児童生徒の評価

心豊か	1	それぞれの人の思いや考えを認め合うことができた。	94%
	2	夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができた。	92%
たくましく	3	自ら目標を立て、計画的に取り組むことができた。	89%
	4	夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができた。	89%
重点目標	5	学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができた。	77%
	6	縦割り活動や遊びの中で、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝え合ったりしている。	86%
	7	自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができた。	83%
	8	様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができた。	89%
	9	先生たちは、自分のことをわかってくれている。	92%
	10	「いじめ」を許さず、みんなが安心して過ごせるように考えて行動できた。	93%
	11	悩みがあるときはアンケートや教育相談などで、先生に相談しやすく安心できた。	89%
	12	地域の方から学んだり、共に活動したりして、温かい関係を築いている。	92%

○ 職員の評価

心豊か	1	児童生徒は、周りの人の思いや考えを認め合うことができています。	83%
	2	児童生徒は、夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができていた。	66%
たくましく	3	児童生徒は、自ら目標を立て、計画的に取り組むことができています。	66%
	4	児童生徒は、夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができています。	66%
重点目標	5-①	児童生徒は「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組めるように授業や諸活動を工夫した。	77%
	5-②	児童生徒は「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができています。	50%
	6	児童生徒は縦割り活動や遊びの中で、それぞれの学年に応じて、自分の役割や立場を自覚して、他の学年の子と話し合ったり、考えを伝え合ったりすることができています。	80%
	7-①	児童生徒が個別最適な学びを進められるように授業改善に取り組んだ。	77%
	7-②	児童生徒は、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができています。	22%
	8-①	児童生徒が協働的に学びを進められるように授業改善に取り組んだ。	94%
	8-②	児童生徒は、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができています。	77%
	9	学校は、一人一人の子供のことを理解し、個に応じた支援を行うように努めている。	77%
10	学校は「いじめ」を生まない環境をつくり、誰もが安心して居場所づくりに努めている。	83%	
11	児童生徒と話したり、様子や変化を家庭と共有したりして、子供理解に努めている。	88%	
12	学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。	94%	

4. 今後の改善方策(2月26日現在)

- 主体性と粘り強く挑戦し続けること→自己決定と自己調整を大切に教育活動を推進する。「自分たちの学校は自分たちで作る」意識の向上。
- 「引北らしさ」を生かした教育活動の充実に関して→つきたい力と小中の接続を意識した「国際コミュニケーション科」と「ふるさと科」の実践。各ブロックにおける異年齢集団活動の充実と日常化。上級生が下級生に生活習慣（挨拶や規律）背中で教える文化の醸成。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善→授業における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実。基礎学力の定着。効果的なICTの活用。複式学級における運営と指導力向上のための研修推進。
- 安心できる居場所づくり→生徒指導における共通理解、個に応じた支援、教育相談体制の充実。子供の成長を支える基盤として、学校生活全体で、いじめの芽を摘む土壌づくりを推進。

○ 保護者の評価

心豊か	1	お子さんは、周りの人の思いや考えを認め合うことができています。	98%
	2	お子さんは、夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができていた。	81%
たくましく	3	お子さんは、自ら目標を立て、計画的に取り組むことができています。	81%
	4	お子さんは、夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができています。	77%
重点目標	5	お子さんは、学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができています。	82%
	6	お子さんは、縦割り活動や遊びの中で、自分の役割や立場を自覚して他の学年の子と話し合ったり、考えを伝え合ったりできています。	73%
	7	お子さんは、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができています。	60%
	8	お子さんは、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができています。	86%
	9	学校は、一人一人の子供のことを理解し、個に応じた支援を行うように努めている。	85%
	10	学校は「いじめ」を生まない環境をつくり、誰もが安心して居場所づくりに努めている。	73%
	11	学校は、児童生徒が困ったときや悩みがあるとき、相談しやすく安心できた。	71%
	12	学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。	100%

○ 本校の成果と課題

【成果】
 児童生徒は互いの考えを尊重し、全学年で9割以上が「いじめを許さない安心できる環境」と評価している。最大の強みである地域連携は、保護者・職員からほぼ100%の支持を得て、多様な活動が展開されている。一貫校の利点を活かした縦割り活動も評価が高く、異学年交流を通じて役割意識の向上や相互理解が進んでいる。

【課題】
 主体性について、「自分たちの学校をつくる」意識の低さや、困難に挑み続ける粘り強さの不足が課題である。学習・生活面では、計画立案や振り返りを行う自己調整能力の定着が課題であり、挨拶等の基本習慣の徹底も図りたい。また、縦割り活動の質的向上や一貫校の利点を活かした教育活動の更なる充実が不可欠である。

○ 学校運営協議会による学校関係者評価

○学習面と主体性の課題
 自主学習への認識に対する子供と大人の差を埋めるため、教師が伴走者となり自ら考える力を養う方針を確認した。また、基礎学力の定着には家庭の協力が不可欠であり、学校と家庭で共通の目標を持つ重要性が強調された。

○学校生活と行事のあり方
 児童生徒のアンケート結果などを通じて、「粘り強く取り組む姿勢」の不足が懸念されている。挨拶などの基本的な生活習慣について、大人が手本となり指導していく方針である。また、小中一貫校特有の行事の多さについて、子供の成長への寄与する面を考慮しつつバランス調整していく。

○多様な児童への対応
 集団生活において、特定の子だけでなく全員に活躍の場を与える配慮や、複式学級における「授業の進め方シート」の活用など、指導の工夫が進められている。子供が自覚することを待つだけでなく、いかに主体的な学習姿勢へ繋げるかが今後の焦点となる。

○いじめへの対応
 成長過程のトラブルやいじめに対し、保護者の意見を尊重しつつ、学校が丁寧に連携・対応していく方針を確認した。